

Challenge to freedom.

WORK EMOTION CR 3P
×
EDGE CUSTOMS
DODGE CHALLENGER S



Incomplete
without
wheels

いま改めて知る、名盤「CR 3P」の奥深い魅力

理想を超えるハイグレード。

カーカスタムにおける構成パーツの組み合わせほど難しいものはない。
何かひとつだけが突出してはいけなし、その逆もまた効果を半減させる。
だから知ってほしいのだ。一切の破綻がないこのクルマの存在を。

問い合わせ：WORK WHEELS 東日本コールセンター TEL 048-688-7555
西日本コールセンター TEL 06-6746-2859
中日本コールセンター TEL 052-777-4512

取材協力：LUXZ Tel.0120-694-206 luxz.jp
Text：空野 稜 Ryo Sorano Photo：浅井岳男 Takeo Asai

圧巻のワイドボディには
極深サイズのホイールを

日本国内はもとより、今では世界的にもその名が知れ渡るLUXZプロデュースの「エッジカスタムズ」。そのボディワークは他に類を見ない独創的なもので「他人と同じ仕様にはしたくない」と思うユーザーから熱烈な支持を受けている。今回撮影したヘルキャットもエッジカスタムズ・チャレンジャーSのボディキットを採用。これは同ブランドがチャレンジャーのカスタムを開始して10周年を迎えた2020年に発表したものだ。オーパーフェンダーの下端を切り落としたようなスタイルは先に発売されていたRラインを継承するが、よりワイド化された姿は「圧巻」と言う言葉以外見当たらない。サスペンションはエアフォース製クルマとしての機能を損なうことなく、究極のスタイリングを追求するには必要不可欠なエレネメンツだ。

そして忘れてはならないのが、足もとで独自の存在感を發揮するホイール。大胆なカスタムを行なうLUXZ代表・島澤氏にとっては、「作品のクオリティを大きく左右

Challenge to freedom.

WORK EMOTION CR 3P

×
EDGE CUSTOMS
DODGE CHALLENGER S

インパクト大のフォルムは
エアサスの投入で実現！

エッジカスタムズSのボディキットとエアフォースのエアサスで、グッと低く構えたスタイリングを実現。まさに獲物に飛びかかるうとする黒猫のような雰囲気を醸し出している。

装着サイズ

Front:

11.0J×20、-74 P.C.D115-5H
NITTO INVO 275/30R20

Rear:

12.5J×20、-93 P.C.D115-5H
NITTO INVO 345/25R20

- ディスク：セミオーダーカラーのゴールド
- リム：オプションのブラックアルマイトリム
- ピアスボルト&エアバルブ：オプションのゴールド



3ピース構造のCR 3Pなら
サイズもカラーも自由自在

インセットサイズの自由な設定もCR 3Pの魅力だが、キャリバーのかわし方も自然で美しい。リムとピアスボルト&バルブはオプションとなる。

する最重要パーツでもある。ちなみにフロントが275/30R20、リアにいたっては345/25R20と言うと、つもなく太いNITTO INVOをチョイスしたため、生半可なホイールでは装着すら不可能。しかし、そんなハードルを見事にクリアして見せたのが、メイドinジャパンにこだわり続けるWORKだ。そして数多のラインナップからチョイスしたのは「ワーク・エモーションCR 3P」。3ピース構造だからこそ可能となるベストなサイズセット。リングをもちろん、唯一無二のカラードesignも追求できるというカスタマイズには理想的なホイールだ。

フロントは11J、リアは12.5J。チャレンジャー用としてはやや深いサイズだが、注目すべきはそのインセット。なんとフロントはマイナス74、リアにいたってはマイナス93と、聞いたこともないような極深サイズが実現されていた。リムの内側にはディスクが映り込み、まさにエッジカスタムズとワーク・エモーションCR 3Pでなければ体現することのできない、まさに「向こう側のカスタム」である。



デザイン性と高い性能を
高い次元で融合

5本のツインスポークは非常に細く軽快な印象を与えるが、厚みを持たせ強度もしっかり追求。美しさだけでなく性能も決して疎かにしない。写真は標準カラーの一部。



パーニングシルバー/
バフアルマイトリム



マットカーボン/
バフアルマイトリム



ブラック/
バフアルマイトリム

